

子どもたちに届けたい温かいまなざし ～人間関係捨てたもんじゃない～

玉川大学 教授
しぶ や ゆき なり
渋谷 行成さん

玉川大学 教育学部 乳幼児発達学科 教授
1995年に新宿区社会福祉事業団に入職、母子生活支援施設かしわヴィレッジにて勤務。退職後、大学の非常勤講師を経て、現在に至る。主に子どもの虐待や貧困に関する支援に取り組んでおり、寄稿に「子どもの学習支援に取り組む中で見えてきた貧困の諸相」「虐待を受けた子どもとDVの影響を受けた子どもの支援」などがある。



学習塾の様子

親からの暴力や虐待、貧困などで心身に深い傷を負った子どもたちと長年向き合ってきた渋谷行成さん。虐待を受けている子どもやその親への関わり方、学習支援や子ども食堂を通じた子どもの居場所作りなど孤立している子どもたちをどのように支えるかについてお話を伺いました。

「虐待を受けている子どもの置かれている環境にはどういった特徴があるのでしょうか。」

子ども虐待を招く要因として考えられるのは、社会的な要因や、保護者側、子ども側の要因、家庭の問題などがあると思います。まず第一には孤立しているのがキーワードではないかと思えます。児童福祉施設も含めて子どもたちの自立を目指すとか、ひとり親世帯の自立を目指すとか言われていますが、自立ってというのは誰かとつながるってことだと思えます。

つながりなき自立はただの孤立と言われるように誰かにつながって、何かあった時にSOSを

「虐待を受けている子やその親への支援についてお聞かせください。」

出せる相手がいる、そしてそれに応えてくれる相手がいるというのが大事だと思います。SOSを出す相手がない人たちが結構いるし、孤立していることに周囲がなかなか気付かないことで更なる孤立につながってしまうのです。

温かいまなざしがほしい。大人

「あなたを信用していいの？」という問いに聞こえるんです。私が無料の学習塾や、子ども食堂をやってきたというのは、そういう子どもたちと出会った時に「人って優しいんだよ」「大人って信用できるんだよ」ということを体験させたいと思っただけです。人に心配されたり、期待されたり、言葉にして伝えるのではなく、同じ場所に集まって過ごすことでいつも自分のことを気にかけてくれる大人がいるという事を知るのです。「人とつながる」ことの心地よさや喜びを体験することで、大人に対する不信感を払拭したいと考えています。

「渋谷さんが行っている学習塾や子ども食堂をはじめたきっかけを教えてください。」

無料の学習塾、チャールハンの会(子ども食堂)などの活動は出会いの場だと思っています。何かあれば必ず駆けつけてくれる大人と出会ってほしいと思います。しかし、ただ出会うだけではだめです。一緒に悩んで苦労して、その過程の中で心配されたり期待されたり、ある時はぶつかって仲直りしたり。そういうことが大切なんです。

チャールハンの会は無料で食事を

配っていますが、親から虐待を受けた子どもたちはその親と顔を合わせる食事の時間は恐怖でしかなかったと言ったんです。それなら、食事の時間はそうでないことを体験させてあげようと思っただけです。孤食が当たり前になっている子どもたちにそれは当たり前じゃないよと伝えたいと思い、私がごはんを作って一緒に食べようと思いました。それが始まりです。また、以前に、学習塾の職員がルールを守らせるのにすごく厳しい指導をしてしまい、上手くいかなかったことがあったんです。逆に私はすごく緩く指導します。そうすることである日ずつと通い続けたと思う時がくるんです。子どもたちが通い続けたいと思っただけで、初めて厳しくするんです。

「この人は裏切れない」と思うような他者がいないんです。これを

「重要な他者について詳しく教えてください。」

赤ちゃんが泣くと、ほとんどの母親は気づいて泣き声にしっかりと応え、受けとめて行動します。そうすることにより、何かを伝えたら応えてくれるということをや赤ちゃんは学びます。それと同時に大切にされる体験をします。母親が泣き声に反応すると同時に大切な自分と、大切な他者(重要な他者)が生れます。大切な自分を体験するには大切な他者が必要なんです。大切な他者が喜ぶことを子どもはしていくようになります。最初から子どもは善悪がわかって生まれるわけではなく、大切な他者の表情を汲み取り、大切な他者から評価してもらうことに

よって、人格や性格が形成されていくんです。

ところが、虐待環境の中にいた子どもたちは自ら伝えることをあきらめてしまう。その状態で、保護すると重要な他者がいまま成長していきます。

私は「失敗する自由」が子どもにはあると思います。虐待する親は子どもが失敗すると暴力などに走ってしまいます。しかし、親や重要な他者が子どもたちの失敗を大切に扱えば、失敗から子どもたちは学びます。そういう体験がないまま、子どもたちが成長してしまふのかと思ったとき、私は重要な他者を作るしかないと思えました。成功も失敗もする。それでも自分を受け入れてくれる人間関係を育んでいき、その積み重ねで人への信頼を回復していくと考える

「私たちは、孤立している子どもたちにどのように関わり、伝えていけばよいのでしょうか。」

私は人間関係捨てたもんじゃないと思っています。ただ、虐待を受けた子どもたちは、はじめての人間関係で傷ついているため、マイナスからのスタートです。だから、そういう子どもたちに人間関係捨てたもんじゃな

いというのを体験してもらおう。その場所が塾であり、チャールハンの会であると思っています。

私は、それを伝えるには、言葉に頼るのではなく、体験することしか伝えることはできないと思っています。それが伝わったかどうか、評価してくれるのは子どもたちです。

出会ったときは、敵意をあらわにし「大人なんか信用できない」

「最後に読者の方にメッセージをお願いします。」

まずは、子どもたちを丁寧に理解してほしいです。虐待を受けた子と先入観をもつのではなく、その背景に何があるのかということを考えながら、関わっていく事が大切です。そのためには大人や社会が子どもたちに対して、温かいまなざしを向け、地域に多くの出会いの場を作っていくことが求められています。

※保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護することへ、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うこと。(厚生労働省HPより抜粋)

具販売・販売用
レンタル・販売用
住宅リフォーム
サービス・ふあいん
手すり1本からお取り付けします。
介護保険対応のカタログをお送りします。
「10月1日」は福祉用具の日です。
Silver
HOXON シルバーホクソン
〒332-0032 川口市中青木2-22-34
フリーダイヤル 0120-65-4649
介護保険指定事業者番号1170200222

福祉用具貸与・販売 / 住宅改修
訪問介護サービス
稼働を続けて30年
福祉のニツカ
専門相談員が心のこもった相談に応じます
介護保険事業所番号 1171200213
0120-002940
三郷営業所 / 三郷市早稲田3-8-1
流山営業所 / 流山市平和台3-2-41
葛飾営業所 / 葛飾区亀有4-25-8
洗浄消毒センター / 三郷市早稲田8-25-6
産成ヘルパーステーション / 三郷市産成3-7-12-101
産成介護相談室 / 三郷市産成3-7-12-101
早稲田介護相談室 / 三郷市早稲田3-8-1
本社 / 三郷市早稲田3-16-5